

〔論文〕

U. S. Steel Trust の成立

—アメリカ鉄鋼独占体形成史 (VII)—

溝田 誠吾

I 本稿の課題

わたしは、前稿¹⁾において U. S. Steel Trust の形成の経済的基礎として、各鉄鋼資本グループ—Carnegie group, Morgan group, および Reid, Moore group—の銑鋼一貫企業による第二次製品部門の支配—垂直的統合—政策の展開を具体的に分析した。この分析から、各資本グループによるこうした第二次製品部門の支配政策の展開は、基本的には「大不況」期＝「独占形成」期への対応政策—その他、原・燃料支配、運輸支配とともに—の一貫として把握する必要があること、また、従来わが国の研究でいわれている1900年秋以降の時期の各個別企業間—半製品企業と完成品（＝第二次製品）企業間—の対抗関係による垂直的（上昇的・下降的）統合政策の展開は、U. S. Steel Trust—独占—の成立—歴史的画期—による鉄鋼産業の危機の止揚（＝回避）へ向ってのドラスチックな運動のなかに位置づけ、その基本視点は企業視点からではなく、各資本グループ視点という上位概念に置いてこそ正確に把握できることを指摘した。さらに、Carnegie group による第二次製品部門の支配政策の相対的な立ち遅れによるその基軸製品—半製品鋼材—スラブ、ビレット、シート、プレートなど—市場の喪失の危機に直面し、それが折からの不況期の下で各資本グループの巨大銑鋼一貫企業間の破滅的な競争に転化することが予見され、その回避へ向って急転回＝U. S. Steel Trust の成立へ導くことになっ

目次

〔論文〕

U. S. Steel Trust の成立……………溝田 誠吾……………(1)

—アメリカ鉄鋼独占体形成史 (VII)—

編集後記……………(32)

たことを結論とした。

なお、本稿では、不況期の下での各個別資本—鉄鋼一貫企業=巨大企業を中軸とする—が、破滅的な競争戦を回避せざるを得ない矛盾の経済的基礎を明らかにすることを課題とする。この課題を果すことが同時に U. S. Steel Trust の成立の経済的基礎の分析につながっている。

Ⅱ. U. S. Steel Trust 成立の経済的基盤—諸説の検討を中心に—

アメリカ合衆国における Trust 研究のなかで、U. S. Steel Trust の形成要因については、数多くの研究者がとりあげている¹⁾。本稿では、そのすべて論稿をとりあげる余裕も、又必要もないので、全体に共通する形成要因と考えられる論点を、E. Jones²⁾、P. Temin³⁾、および会社局の調査⁴⁾を中心に検討することにする。

以上の三者の論稿を含めて全体に共通してとりあげられている形成要因を具体的にみると、

i) 競争の制限あるいは除去 (restriction of competition)

ii) 垂直的統合 (vertical integration)

iii) 発起人利得 (promoter's profits)、以上の3要因である。この他に、P. Temin は、その著書で、独占形成による独占的超過利潤の増加に対する要求をあげ、さらに、H. L. Wilgus は、その著書で⁵⁾、貨幣市場 (money market) の状態と Carnegie Steel Co. を中心とする Carnegie group の A. Carnegie 鉄鋼業からの引退の希望をあげている。この H. L. Wilgus の論点のなかで、A. Carnegie の引退の希望は確かに事実ではあるが、むしろ「大不況」期=「独占形成」期を通じ、アメリカ鉄鋼業の主導企業であった Carnegie Steel Co.—(社長)=A. Carnegie—を U. S. Steel Trust の成立に参画・統合させる強制となった鉄鋼個別資本の競争関係を規定する経済的根拠—とくに競争構造—の具体的な分析こそが必要である。

なお、全体の論稿に共通する U. S. Steel Trust の成立の主要要因 (= 動機) である、以上の3点について以下、検討をすることにする。

わたしは、U. S. Steel Trust 成立の主要な要因としての3点については、異論を唱えるものではないが、i) 各論者とも3点を並列的にのべるだけで、3点の成立要因の連関が、当時のアメリカ鉄鋼業の競争構造とそれに規定された競争—その具体的な諸方法、諸手段—関係を基礎に分析・把握されていない。以上の点と関係するが、ii) 3点の成立要因の基礎にあり、U. S. Steel Trust—独占—の成立にまで導びかざるをえない鉄鋼個別資本—とくに「鉄鋼一貫企業」=「結合企業」(=巨大企業)—の内包する矛盾(=経営危機)と具体的な対応政策の採用とその破たん→競争激化=巨大企業の相互共倒れの危機の具体的な分析こそが必要である。こうした具体的な分析によってこそ、U. S. Steel Trust の成立—部門内競争の止揚—の可能性と必然性が抽象的にではなく、歴史的具体的に明確になるであろう。また、成立要因の3点の相互連関も論理整合的に一本の赤い線で叙述可能となるであろう。

わたしは、U. S. Steel Trust を成立に導いてゆく、経済的基礎—赤い線—をつぎの点にみ
いだしている。

結論をさきどりしてのべると、「大不況」期—「自由競争」による自己調節機の喪失—の不況
の連続の下で個別巨大企業（＝大経営）に累積・温存された過剰資本—その許容限界＝共倒れ
の危機に直面した—の強力的「処理」機構の成立、実現こそが、U. S. Steel Trust（＝「独占」）
の成立に導く経済的基礎であった⁶⁾。以下、この過剰資本の処理の各段階における特徴と差異
を具体的に実証するまえに、この点を少し詳しく考察することにする。

いわゆる「大不況 (great depression)」期—1873年恐慌を契機に、1890年代の中葉の回復期
まで続く—の経済循環(10年周期)⁷⁾の特徴は、好況は短期間で弱く、全体としてこの20数年間
は恐慌とそれに続く不況の連続であった⁸⁾。こうした「大不況」期は、産業資本主義内部で進行
した構造変化—わたしは、この点を企業（構造）類型という概念を用いて分析した—によって、
その主導原理である「自由競争」(free competition)が調整機能を喪失したことの証明であ
った。この「大不況」期における過剰資本（とくに過剰生産能力）の形成・累積による市場価
格の低落—利潤率の低下のもとで、鉄鋼諸資本—生産手段生産部門—は、個別価値を市場価値
以下—特別剰余価値の獲得—にするために激烈な競争を強制されることになった。この過程の
競争は、鉄鋼個別諸資本による新しい生産諸方法の導入、普及をめぐって展開された。こうし
た鉄鋼個別資本による技術変革とその導入・普及が、これまで、わたしが具体的な分析によ
って析出したような「鉄鋼一貫企業」＝「結合企業」—独占段階の独自の企業類型—の成立過程
であった。この「結合企業」の成立過程は、不変資本部分—とりわけ充用固定資本部分—の巨
大化（＝標準必要資本量の増大）によって資本の有機的構成の高度化をもたらした。こうした
資本の有機的構成の高度化は、主要には、i) 総資本に占める可変資本の減少、ii) 流動資本
にたいする固定資本の割合の増加による資本の回転期間の延長、その他、繁栄の頂点において
は、とくに、熟練労働力の不足による労働期間の延長、流通期間—国内市場の狭アイ化¹⁰⁾—な
どによって利潤率を低下させることによって、資本の価値増殖の諸条件の悪化を意味した。

しかも、たとえば、鉄鋼業—とくに、半製品生産企業 (semi-finished products firms)—の
ように固定資本部分の巨大化した産業部門では、産業循環の好況局面において、需要の増大に
供給が適応せず—すなわち、需給の時間的づれ—、急激で、強度な価格騰貴を現象させた。こ
の経済的根拠は、i) 生産手段生産部門における社会的、平均的な生産条件が不断の技術変革
（改善を含む）＝「道徳摩滅」の加速化—に規定されて、生産単位レベルで巨大化—「単純工場」
から「結合工場」へと、標準必要資本量増大したこと、ii) こうした鉄鋼業など固定資本部分
の巨大な生産手段生産部門—消費手段生産部門（たとえば、繊維産業）に対して—における工
場・プラントの建設期間の長期化、などにあった。

以上のような経済的根拠を基礎とした、この傾向によって、この産業諸部門への資本の新規参入と新規投資が集中する。そこで、有機的構成のもっとも高い—固定資本の巨大化した—諸部面では、資本の過剰投下、過剰蓄積が、個別経営の下では過剰能力 (over-capacity) = 過剰設備として恒常的・一般的(恐慌、不況局面だけでなく)—一時的現象ではなく—に累積・温存されることになった。しかし、産業循環の恐慌および不況局面では、この恒常的過剰能力—過剰蓄積—の存在する技術的に最も進んだまた、固定資本の巨大な生産部門—資本の回転期間が最も長く、かつ技術の改善ならびに更新のもっとも大きいところ(たいていは有機的構成のもっとも高いところ)¹¹⁾—で、その現象が最もはげしい。こうした恐慌および不況期において、その現象の最も激しい鉄鋼個別資本は、前稿¹²⁾で具体的に分析したような対応政策—i) 垂直的統合政策, ii) 原・燃料支配政策, iii) 運輸—鉄道・湖上—支配政策など—採用・展開することになった。しかし、こうした「大不況」期における個別資本の対応政策は、根本的な解決策とはならず、逆に諸資本間の競争を格段に激化させることになった。なぜなら、「大不況」期の過剰資本の存在による利潤率の低下への対応政策—新しい優秀な生産方法の採用を中心とする前述のような諸政策—によって、鉄鋼個別資本間—淘汰・消滅と存続企業間—における技術水準格差—とくに、生産単位レベルにおける「結合工場」と「単純工場」—、およびそれに規定された資本規模格差が一部分の巨大企業(=「結合工場」を独自の生産単位とする「結合企業」)と大部分の単純企業(=「単純工場」を生産単位とする)の併存する市場(=競争)構造となった。このような競争構造の下で、具体的にはアメリカ鉄鋼業を独占に導いてゆく、1893年の全般的過剰生産恐慌の過程で、劣等な生産条件の弱小企業が整理・淘汰されるのと同時並行的に鉄鋼業の各部面における主導企業間の企業合同が急展開した。そして、1900年の秋以降の不況局面において、これまで具体的に分析したような、各資本グループの主導企業—鉄鋼—貫企業=「結合企業」という「企業類型」の巨大企業間の市場支配をめぐる競争が激化した。こうした、各資本グループの巨大鉄鋼資本間の主要な、具体的な競争手段が前稿の第二次製品部門市場の支配政策の展開であった。このような各資本グループの「結合企業」=巨大企業間の競争戦では、対等者同士—技術的・経済的な優越性なし—の闘争であり¹³⁾、弱者が滅ぼされて、この当該部面の資本過剰が処理されることはなく、恐慌局面における競争と、これによる利潤率の低下—資本の再生産条件の悪化—という犠牲をすべての競争者に平等に課すことになった。

以上のように、「大不況」期に恒常的に累積・温存された過剰資本が、費用現象・構成の変化—固定費の増大—の下で、操業度低下の困難性—技術的・経済的な要因—によって、過剰生産、過剰在庫、過剰設備として現象し、個別企業経営の許容しうる限界点に達し、競争戦がとも倒れの危機をもたらすことになった。こうして、「結合企業」=巨大企業間の協調が成立することによって、U. S. Steel Trust—独占—が実現した。すなわち、「大不況」期に個別鉄鋼

資本に恒常的に累積・温存された過剰資本（＝過剰能力）—具体的な恐慌・不況の局面で未処理—こそが、U. S. Steel Trust（＝独占）へ導いてゆく基本的な経済的要因であり、この Trust（＝独占）—独占価格—の成立によって、鉄鋼業の各部門の過剰資本が処理されたのである。こうした経済的基礎のもとで、各論者の U. S. Steel Trust 成立の前述した各要因（動機）を把握する必要がある。

以上のような「鉄鋼一貫企業」＝「結合企業」（＝巨大企業）間の破滅的な部門内競争を止揚し、U. S. Steel Trust（＝独占）の成立に導く経済的要因を基礎に、前述の3要因の連関を統一的に把握すると以下のとおりである。

「大不況」期とくに、「鉄鋼一貫企業」＝「結合企業」という巨大企業内に累積・温存された未処理の過剰資本（＝過剰設備能力）を処理（＝整理）するためには、諸資本＝企業間の独立性を維持、存続させたプール（pool）＝カルテル—とくに、生産制限を中心とする—では不十分であり、Trust（＝独占）—いわゆる trustee device ではない—の成立による部門内競争の止揚＝独占価格の形成によって、非能率な過剰設備（＝工場）を廃棄（abandoned）あるいは休止（idle）し、能率的な工場設備（works or plant）で集中生産をおこなう操業度調整が現実可能となるのである。ゆえに、U. S. Steel Trust 成立要因の第1の競争制限は、以上のような過剰資本の処理を実現するために強制されたもので、それは、Trust（＝独占）—部門内競争の止揚—の成立によって可能となった。なお、第2の垂直的統合は、前稿「U. S. Steel Trust の形成過程(1)—第二次製品市場の支配—、アメリカ鉄鋼独占体形成史(VI)」で分析したように、U. S. Steel Trust そのものの成立要因ではなく、「大不況」期＝「独占形成」期をつうじて部門間利潤率格差の解消（＝均等化）のために、鉄鋼個別諸資本の採用した経営政策の一貫であった。むしろ、もっと正確に言えば、U. S. Steel Trust の成立は垂直的統合企業（＝「結合企業」）と水平的統合企業（第二次製品部門の大企業）を含む水平的統合（horizontal integration）であった。そして、この結果成立した U. S. Steel Trust は、半製品部門（＝鉄鋼一貫企業が分担）と第二次製品の各部門（＝各第二次製品企業）および原・燃料（鉄鉱石・石炭・コークス・石灰石）部門、運輸（鉄道・湖上）部門を支配する垂直的統合企業となったのである。なお、別の表現をつかえば、U. S. Steel Trust は鉄鋼業の各部門（半製品、第二次製品、原・燃料、運輸）の各市場（生産）を独占的に支配する巨大企業を合同（consolidation）した重層的な結合企業の有機的統一体であり、その U. S. Steel Trust という全体のなかに各構成巨大企業が構成要素（element）＝分枝として組み入れ、それぞれの歴史を刻み込んで、Trust（＝独占）の特徴をなしている。第3の発行者利得という成立要因について、U. S. Steel Trust を構成した前提諸企業が、第一次合併（第一次合同運動ではない）時に大部分—Carnegie group を除く、Morgan group および Reid, Moore group の諸企業—は具体的分析で明らか

になったように資本水増し—過大資本化 (over-capitalization) されており、市場株価を上昇させ、発行者利得を獲得し、さらに資本水増し部分の水抜きをおこなうためには利潤率(=収益)の上昇とその安定が必要であった。しかし、「大不況」期の下で、これらの巨大企業内には、過剰資本が累積・温存され、Trust (=独占)—部門内競争の止揚—によって、その過剰資本を処理—利潤率の上昇—しなければ共倒れの危機に直面していた。こうした、U. S. Steel Trust を構成したとくに、巨大企業間の矛盾=危機が、第一次合併時にこれらの企業の創業・発起 (promote) および引受 (underwrite) に深くかかわっていた銀行資本—投資銀行家 (investment banker) —および専門発起業者 (promoter) の利益の喪失の危機に転化することによって、こうした銀行資本—とくに、Morgan group—の主導権の下で、Trust (=独占) が成立したのである。また、発行者利得は、U. S. Steel Trust の成立時にのみ主要契機ではなく、第一次合併時にも発起、引受の銀行家にとって動機をなしたのであり、U. S. Steel Trust の独自の成立要因ではなく、わたしが前述したような巨大企業間の過剰資本の累積による利潤率の低下と共倒れの危機こそが、U. S. Steel Trust の成立の基盤であり、この点をあいまいにして発行者利得のみ—「金融的要因」—から、その成立を説明するのは誤りである。

こうした銀行資本の金融的利害を中心に U. S. Steel Trust の成立を把握する諸論者の依拠する出典は、E. S. Meade, の “Trust Finance” (1904年) である。こうした論者の代表は、鎌田正三教授、石崎昭彦教授である。なお、石崎教授については、前稿で要約的に検討したので、鎌田正三教授の論点を以下、簡単に検討する。

鎌田教授は、その著書『アメリカの独占企業』(時潮社、昭和31年)において、「U. S. Steel の結成」を分析している。そこで分析されている U. S. Steel の結成の動機の基本線は、E. S. Meade に依拠した「金融的要因」説である。これを U. S. Steel Trust の成立における基本線 (=基本的要因) とする点では、前稿でとりあげた石崎昭彦教授と同じである。鎌田教授の「金融的要因」説をもうすこし、具体的にみると、U. S. Steel Trust の成立直前の1900年後半に鉄鋼市況は反動(=不況・下落)をこうむり、Trust を構成した諸企業(とくに、Morgan group, Reid, Moore group) は、第一次合併時(これは、第一次合同運動ではない)に過大資本化 (over-capitalization) = 水増し株 (watering stock) を発行し、この株価をトラスト・プロモーター(とくに、銀行家、金融機関)の利益を代表し、つりあげるためには「高配当=低積立金→低内部蓄積」政策の採用を強制された。しかし、この政策は、過大資本化された諸会社の資本の水抜きを、「低配当=高積立金→高内部蓄積」政策によって実現する保守的政策 (conservative policy) と矛盾することになった。さらに、いずれの政策をとるにしても、1900年後半の不況の影響—利潤率の低落—を回避するためには、こうした金融的産業 (financial industry)—Morgan group, Reid, Moore group—を中心とする「競争の制限」→利潤率の上昇が

必須の条件であった。しかし、金融的産業の主導のもとで、競争を制限し、利潤率を上昇させ、所期の目的を達成するためには、産業的産業 (industrial industry) — とくに Carnegie group = Carnegie Co. of New Jersey — の統合が最大の課題であった。この産業的産業の代表 = 典型である Carnegie group の降伏は、1901年以降の鉄鋼景気の回復によって証券市場での大買方運動が続いた点に原因を見い出している。なお、鎌田教授は、この U. S. Steel Trust (= 独占) の成立にとって、Carnegie Co. of New Jersey の買収・統合を重視していたが、最大・最強の同社が統合されざるをえなくなった経済的原因 (= 基礎) の具体的分析はなにもない。さらに、鎌田教授 (E. S. Meade に依拠) のいう「金融的産業 (銀行資本などが利害関係をもつ) — その代表 = 典型は、第一次合同運動期の鉄鋼業 — が周期的競争 (periodical competition) を回避しなければならない根拠が「鉄鋼業の金融的支配 (the financial control of the steel industry)」の危機に求められており、鉄鋼業をトラスト独占の成立にまで導かざるをえなかった危機の具体的分析もない。以上、鎌田教授は、E. S. Meade の論文に依拠した「金融的要因」説ということができる。

以上、わたしは U. S. Steel Trust (= 独占) 成立の経済的根拠 — 本質的・基礎的要因 — を基軸にすえながら、諸論者の論拠を批判的に検討した。以下、ここでは、U. S. Steel Trust を成立を論ずるうえで、Carnegie group = Carnegie Co. of New Jersey (1900年) — Carnegie Steel Co. の Frick Coke Co. との合併による再組織 — の生産と市場における主導的な支配力の動揺と崩壊の危機の経済的基礎を具体的に分析説明することが必要である。

その第1は、前稿「U. S. Steel Trustの形成過程(1), (2) — 第二次製品市場の支配」で分析したように、この第二次製品部門の製品市場 — この部門は半製品鋼材 (semi-finished products) の市場 (= 販路) — の支配の欠如 (すなわち、この市場の喪失) による Carnegie Steel Co. の支配的地位の動揺。第2は、Carnegie Steel Co. の第二次製品部門への進出、支配の資金調達面での相対的困難 — 資金調達方式の変化と自己金融方式の限界を基礎とする —。第3は、Morgan group の鉄道運輸部門支配 — とくに製品輸送としての鉄道システムにおける — によるこの部門での Carnegie group の競争上の優位性の喪失¹⁴⁾。

このような、Carnegie group の支配的位置の動揺と崩壊の危機が、U. S. Steel Trust を成立に導く、もうひとつの大きな要因であった。

Ⅲ トラスト (= 独占) の成立と過剰資本の処理

— 「大不況」 (great depression) を中心に —

ここでは、「大不況」期 = 「独占形成」期 (1873~1897年) の各年代における鉄鋼業の各部門における過剰資本 (= 過剰設備) の存在態様とその処理 (廃棄ないし休止) の特徴を具体的

に分析する。ここでの分析のねらいは、これまで、U. S. Steel Trust (=独占)の成立の基礎にあって、その成立を強制した鉄鋼諸資本間の矛盾の現象形態は不況期の下での過剰資本と極端な鉄鋼製品の市場価格の低落—利潤率の低落であり、その過剰資本がトラスト (=独占) =独占価格の成立によって、ドラスチックに処理されたことを具体的な資料によって検証することにある。この検証そのものが、これまでの各論者の U. S. Steel Trust の成立動機の説明に対する、わたしの批判的見解の根拠をなすものである。以下、具体的に各年代の鉄鋼業の各局面における過剰資本の処理の特徴を具体的な資料にもとづいて簡潔に要約することにする。

i) 1880年代—1884年, 1886年—

アメリカにおける「鉄道ブームの崩壊とフランスの取引所ブームの崩壊」からはじまった恐慌は、1883年にいたって世界的性格をもつにいたり、この恐慌の下でアメリカ合衆国の主要な工業部門—とくに固定資本の諸要素を生産している重工業—は、ひどい打撃をうけた。こうした恐慌の最も激しくなったのは、1884年の夏であった。このような状況を ≪L. Economiste Français≫ は、「周知のとおり、1884年なかばから1885年なかばまでアメリカ合衆国の工業企業の5分の1は操業をやめ、他の5分の1は部分的に操業していたにすぎなかった」と書いている¹⁾。こうした状態のもとで、鉄道業およびその関連諸部門の市場(需要)に大きく依存していた鉄鋼業の打撃は非常に大きかった。まず、この恐慌局面での鉄道資本による鉄道建設をみると、i) 1881~2年—11,569マイル(≒18,614キロメートル)と最高であり、ii) 1883~4年—3,923マイル(≒6,312キロメートル)、iii) さらに1884~5年—2,975マイル(≒4,786キロメートル)と最低に激減し、この1885年は、恐慌直前の活況時1882年の約26%に低下した²⁾。こうした鉄道建設の通減は、鉄道運輸のために直接働く諸部門および蒸気機関車・車輛の製作部門と軌条(レール)圧延部門をもつ鉄鋼業に打撃をあたえた。これを具体的にみると、i) 機関車は1881年1,978輛から1885年447輛へと約77%も減少した。全体的には、ピーク時の機関車と車輛の生産は3分の1ないし4分の1となった。ii) 軌条(レール)の生産は、1882年の総圧延製品3,629千グロス・トンのうち1,508千グロス・トンから1885年総圧延製品2,982千グロス・トン(1882年の82.2%)のうち977千グロス・トン(1882年の64.8%)とほぼ40%程減少した。なお、軌条生産量のうち、鍊鉄製軌条は—203千グロス・トン(1882年)から13千グロス・トン(1885年)へと—94%も減少し、これに対して、鋼製軌条—1,304千グロス・トン(1882年)から964千グロス・トン(1885年)へと—は約26%減少したにとどまり、この恐慌のもとで鍊鉄製軌条圧延工場—劣等設備—が集中的に休止(idle)ないし廃棄(abandonne)に追い込まれたことを示めている。

つぎに、この恐慌局面での鉄鋼業—重工業部門—における過剰資本(=過剰設備)の処理の特徴を具体的に分析することにする。

製鉄部面—第Ⅲ—1表によれば、1884年に休止（＝遊休）ないし廃棄された総企業144社—総溶鉱炉数146基（これは、総溶鉱炉数675基の21.6%）であった。この休止ないし廃棄された溶鉱炉を使用燃料別にみると i) 木炭溶鉱炉＝企業数101社（全体の70.1%）—溶鉱炉数101基（全体の69.2%）、ii) 無煙炭溶鉱炉＝企業数30社（20.8%）—溶鉱炉数30基（20.5%）、iii) 瀝青炭溶鉱炉＝企業数11社（7.6%）—溶鉱炉数14基（9.6%）、iv) コークス溶鉱炉＝企業数2（1.0%）—溶鉱炉数2基（1.3%）となっている。これを生産能力と生産量比率＝稼働率でみると i) 木炭溶鉱炉＝生産量409千グロス・トン—生産能力1,275千グロス・トンで稼働率32.1% ii) 無煙炭溶鉱炉＝1,717千グロス・トン—3,175千グロス・トン、稼働率44.6%、iii) 瀝青炭溶鉱炉＝2,272千グロス・トン—4,850千グロス・トン、稼働率46.8%、総体では、1884年の総生産量4,098千グロス・トン—総生産能力9,300千グロス・トン、稼働率44.1%であった。ここからいえる特徴は、1882年恐慌のもとで、同一使用価値をも生産物（＝鉄）を生産する製鉄企業のなかで相対的に劣等な生産条件—労働生産性低い—の木炭使用溶鉱炉の休止ないし廃棄が圧倒的な割合をしめていた。なお、休止ないし廃棄された溶鉱炉のすべてが、「単純工場」を生産単位する「単純企業」であった。

製鋼部面—この部面で休止ないし廃棄された企業数11社のすべてが、小規模な平炉装置であった。なお、1884年にはアメリカ合衆国全体で35の平炉工場（1企業1工場である）があり、この部面の稼働率は約70%であった。この企業11社（第Ⅲ—2表）は、すべて製鋼・圧延の「単純（製鋼）企業」であった。

第Ⅲ—2表 製鋼部門の廃棄設備（1884年）

会社名	建設年	所在地	廃棄設備
1) American Cast Steel Co.	1878	Cleveland, Ohio	steel plant
2) Richardson, Boynton & Co. (Atlantic Steel Works),	1875	232 Water st., New York	steel plant
3) Calumet Tool Co.	1879	Chicago	Simens steel-melting furnace
4) Chicago Sheffield Steel Works	1874—5	Chicago	steel melting furnace
5) Cleveland Cast Steel Works,	1877	145 Superior st. Cleveland	steel casting plant
6) Clucible Cast Steel Casting Co.	1875	Pittsburgh, Pa.,	steel melting furnace
7) Estate of G. F. Wilson.	……	Boston, Mass.,	Simens open-hearth furnace (6 t)
8) North River Steel Works	1875	Jersey City, New Jersey	melting hole
9) Pittsburgh Steel Works	……	Pittsburgh	Simens furnace
10) Read & Thaw,	1878	Allegheny City, Pa.,	melting furnace (6)
11) Wheeling Steel Works	1873—4	Martin's Ferry, Ohio,	steel melting holes (12)
以上 合計11社			

出典) A. I. S. A., Works directory, 1884, p. 158. より作成

圧延部面—この部面での休止ないし廃棄された**圧延単純企業**数50社—工場数55であった。なお、前述したような軌条**圧延部面**—相対的に企業規模大—で、統計上にあらわれない**遊休設備**（とくに、**鍊鉄製軌条圧延企業**）が存在したことは明らかである。

ii) 1886年—回復・好況局面—

1882年恐慌と、それにつづく不況のあと循環性=好況局面にはいり、1887年に盛況局面にはいった。アメリカ合衆国における恐慌からの脱出年限は、イギリス、フランスに比較して短かく、ほぼ3年、1885年の下半期から1886年にかけて盛況局面にはいった⁵⁾。この循環行程の急転換を主導したのは、**重工業**—とくに**鉄鋼業**であった。こうした鉄鋼業の活況化の第1の刺激は、**鉄道敷設に伴う需要増大**にあり、1885年2,975マイル(≒4,786キロメートル)に落ち込んだが、i) 1885~6年8,018マイル(≒12,900キロメートル)、ii) 1886~7年12,876マイル(≒20,717キロメートル)と最高に達し⁶⁾、また、機関車は1888年2,180輛となり、1881年1,978輛を凌駕した⁷⁾。さらに、**活況の第2の刺激—物質的基礎—**は、前の恐慌の場合と同様に**工業**—とくに**重工業**における**固定資本の更新**、さらに**住宅・公共建設—社会資本投資—**によってもたらされた。なお、**鉄鋼業を基軸産業**(leading industries)とした**固定資本の更新と拡大**を準備した基盤には、前稿「**企業類型と独占成立**」『社会科学月報』(専修大学社会科学研究所)8月号で概観したような各部面の**技術変革とその急速な普及・促進**にあった。この技術変革は、恐慌とそれにつづく不況期—**低価格=利潤率低下**のもとでの**鉄鋼個別資本間の競争戦—個別価値の低下**をめぐる—の激化によってもたらされたものである⁸⁾。しかし、こうした技術進歩を企業=経営内に導入するためには、莫大な固定資本が必要であり、これを実現しうるのは一部分の大企業に限定され、大部分の小企業は競争戦のもとで淘汰され、その結果、さらに一部分の有力、大企業のもとに**生産と資本の集積・集中**を促進することになった。こうして、1882年恐慌を経て、1880年代末から90年代にかけて、「**鉄鋼—貫企業**」=「**結合企業**」と各部面の「**単純企業**」間の**資本規模格差(=企業間格差)**が顕在化し、同一規模—**生産条件の均等化**した—の企業間での各種**プール(pool=cartelle)**が締結され、さらには**企業合同(consolidation)—対等合併—**によって**恒常的・一般的な過剰資本(=過剰設備)**を処理しようとする傾向がでてきた。その**典型的事例**は、**鋼レール・プール**であり、1889年の Illinois Steel Co. の成立であった。

なお、以下簡単にとりあげる1886年における休止あるいは廃棄設備のなかには**技術変革の激激な展開**のもとで「**道徳的摩損**」で処理された**過剰資本**をかなり含んでいるものと考えられる⁹⁾。

製鉄部面—第Ⅲ—3表によれば、この部面における休止ないし廃棄された**総企業数**183社—**溶鉱炉数**206基であった。この溶鉱炉使の**用燃料別の内訳**は、i) **木炭溶鉱炉=企業数**127社(全体の69.4%)—**溶鉱炉**137基(66.5%)、ii) **無煙炭溶鉱炉=企業数**14社(7.7%)—**溶鉱炉数**16基(7.8%)、iii) **瀝青炭溶鉱炉=企業数**35社(19.1%)—**溶鉱炉数**44基(21.4%)、iv) **コーク**

ス溶鋳炉=企業数6社(3.3%)—溶鋳炉8基(3.9%)となっている。なお、以上は「単純企業」であるが、1886年には、2社の銑鋼一貫企業における溶鋳炉の休止ないし廃棄が示されているのが特徴的である。

製鋼部面=この部面での休止あるいは廃棄された過剰設備の総企業数20社で、そのうち平炉—3基、鑄鋼炉—17基であった。過剰資本(=設備)を廃棄した企業類型は、すべて製鋼・圧延の「単純企業」であった。

圧延部面=この部面で休止あるいは廃棄された設備は、総企業数74社で、そのすべてが鍛造(forges)、棒鉄(bloomaries)の「単純企業」であった。さらに、製鋼・圧延部面の過剰設備の廃棄は圧延部面に集中していた。

ii) 1890年代—1894年—

概観—1890年恐慌は、アメリカ合衆国においては、貨幣恐慌—信用の激動を原因として現象したが、その基礎には再生産過程の攪乱(=商工業の恐慌)があった。たとえば、工業部門のなかで、鉄鋼業は最もはげしい打撃を受け、1891年(1890年と対比して)には、i) 銑鉄生産高—10%減、ii) 鋼生産高—9%減、iii) 軌条—32%減、価格も20%下落した¹⁰⁾。しかし、この1890年の恐慌は、すべての商工業部門に打撃を与えないうちに中断し、1891年の下半期には好転した。こうしたアメリカ合衆国における循環性好況をながびかせ、工業恐慌を中間恐慌にとどまらせた経済的要因は、i) 穀物の記録的収穫増加、輸出増大、ii) 農業の繁榮による工業製品需要増大、iii) 貨物輸送量増大と鉄道収入増大による鉄道基本投資の増大、さらに、iv) 1890年採択のマッキンレー新関税率は物価の騰貴を助長し、一連の工業部門における生産と労働手段(生産装置)の拡大を刺激した。以上のような要因で恐慌は短期に終わったが、好況も非常に相対的なものであった。つぎの1892年は、1891年の銑鉄生産より増大したが、93年には22.2%減少した。この1891~93年までの3年間の鉄鋼業における個別諸資本の対応は、恐慌のもとで、鉄鋼価格の下落—利潤率低下—にもかかわらず、新規の労働手段—固定資本—が導入され過剰能力(=設備)が顕在化し、操業率の短縮が強制されることになった。こうした恐慌とそれに続く不況期のもとで顕在化した過剰資本(=設備能力)の廃棄・処理は、社会的・平均生産条件以下の諸資本の倒産・整理によってなされた。1893年にはいって、工業と商業の部面における恐慌の徴候は、ヨーロッパをとらえていた恐慌の直接の現象—ヨーロッパ資本のアメリカからの流出—によって、鉄道・工業会社の企業金融を圧迫し、基本建設の規模を制限することによって本格的になった¹¹⁾。

アメリカの商工業をおそったこの1893年恐慌の全般的な深さと持続期間は、メンデルソン作表の第Ⅲ—4表によって示されている。この恐慌は、19世紀のアメリカ合衆国の歴史のなかでもっと深刻な恐慌であった。その深刻さは、多量の生産諸力の遊休(ないし廃棄)に端的に表

第Ⅲ—4表 アメリカ1893年の恐慌

諸 部 門	計 量 単 位	年 度		計 数		低 下 (%)	低 下 年 数	恐 慌 前 の 復 帰 水 準 年	恐 慌 前 の お よ び 年
		最 高 点	最 低 点	最 高 点	最 低 点				
鉄道網の長さの増加	キ ロ メートル	1887	1890	20722	5378	74	—	—	—
“	“	1893	1895	7881	3135	60	—	—	—
石 炭 採 掘 高	百万トン	1893	1894	165.4	154.8	6	1	1895	1
石 油 採 取 高	十億ガロン	1891	1893	2.28	2.03	11	2	1895	3
鉄 鉱 石 採 掘 高	百万トン	1892	1893	16.6	11.8	29	1	1897	4
操業中の熔鉱炉の数 (12月31日現在)	基	1889	1893	344	137	60	—	—	—
銃 鉄 生 産 高	千 ト ン	1890	1894	9348	6763	28	4	1895	4
“	“	X. 1891	VI. 1894	812	319	61	—	—	—
鋼 鉄 生 産 高	“	1890	1891	4346	3967	9	1	1892	1
“	“	1892	1893	5007	4085	18	1	1895	2
軌 条 生 産 高	百万トン	1890	1894	1.6	1.0	47	4	1898	7
機 関 車 生 産 高	台	1890	1894	2300	695	70	4	1889	8
貨 車 発 注 高	千 両	1890	1894	93.2	19.4	79	4	1898	7
造船高(建造された 船舶のトン数)	千登簿トン	1891	1895	369	112	70	4	1900	8
綿 花 消 費 量	千 ト ン	1892	1894	726	505	30	2	1898	5
輸 出 額 (再輸出をのぞく)	百万ドル	1891	1894	957	807	16	3	1896	4
輸 入 額(純)	“	1892	1894	826	659	20	2	1901	8
鉄 鋼 の 輸 入	千 ト ン	1887	1894	1655	314	81	7	—	—
羊 毛 製 品 の 輸 入	百万ドル	1890	1894	57	19	67	4	—	—
卸 売 物 価 総 指 数	1910—1914 年=100	IV. 1891	VII. 1894	85	69	19	3	—	—
農 産 商 品 価 格 指 数	1910—1914 年=100	IV. 1891	V. 1894	82	59	28	3	—	—
鉄 鋼 お よ び 鉄 鋼 製 品 価 格 指 数	1910—1914 年=100	I. 1890	III. 1895	129	72	44	5	—	—
織 維 製 品 価 格 指 数	1910—1914 年=100	VI. 1890	I. 1895	103	76	26	4½	—	—
工業株の相場(12株 《Dow Jones》)	1株当り ドル	I. 1893	VIII. 1893	72	40	40	1	—	—
破 産 負 債 額	百万ドル	1892	1893	114.0	346.8	+204	1	—	—

出典) メンデリソン著『恐慌の理論と歴史』訳, 89ページ。

現されていた。こうした恐慌局面における破壊力の増大は、たとえば、鉄鋼業で成長・発展してきたような「鉄鋼一貫企業」=「結合企業」(=巨大企業)における技術変革=労働手段の変革・拡充(有機的構成の高度化)の強行によってもたらされた。しかし、こうした「鉄鋼一貫企業」=「結合企業」には、恐慌・不況局面での市場価格低落を操業度調整(=生産調整)によ

て阻止し、利潤率を上昇・回復させる対応能力は未成熟であり、少なからず自からの経営内にその負担—過剰資本の累積・温存—を背負わざるをえなかった。こうした解決（一時的）は、鉄鋼業における独占の成立＝独占価格の設定による過剰資本の休止・廃棄（＝処理）と操業度調整（＝生産調整）によって実現されることになった。以下、1894年の過剰資本の処理を分析することにする。

製鉄部面—第Ⅲ—5表によれば、1894年に休止ないし廃棄された総企業103社—総溶鉄炉数128基であった。これらの使用燃料別溶鉄炉数の内訳をみると、i) 木炭溶鉄炉＝企業数45社（全体の43.7%）—溶鉄炉数54基（42.2%）、ii) 無煙炭（コークス）溶鉄炉＝企業数34社（33.0%）—溶鉄炉数43基（33.6%）、iii) 瀝青炭（コークス）溶鉄炉＝企業数17社（16.5%）—溶鉄炉数21基（16.4%）、iv) コークス溶鉄炉＝企業数7社（6.8%）—溶鉄炉数10基（7.8%）となっている。これを稼働率（生産量/生産能力×100）でみると、i) 木炭溶鉄炉＝生産量222千グロス・トン/生産能力1,285千グロス・トンで稼働率17.3%、ii) 無煙炭溶鉄炉＝915千グロス・トン/3,306千グロス・トンで稼働率27.7%、iii) 瀝青炭溶鉄炉＝5,520千グロス・トン/11,680千グロス・トンで稼働率47.3%、全体では、6,657千グロス・トン/16,271千グロス・トンで稼働率40.9%であった。この1894年の製鉄部面における休止ないし廃棄された溶鉄炉の使用燃料別でみると、i) 木炭使用溶鉄炉が4割を越え、ii) 無煙炭溶鉄炉が3割を越え、両溶鉄炉で約8割近くになっている。これらの燃料使用溶鉄炉は瀝青炭およびコークス溶鉄炉に比較して非能率（＝労働生産性低い）な生産条件を有しており、恐慌の過程で休止ないしは廃棄—企業倒産を含む—に追い込まれたことを示している。また、この段階でも、鉄鋼一貫企業の溶鉄炉の休止ないし廃棄は1社だけである。なお、1890ないし1893年の恐慌・不況（市場価格低下）の過程で生産能力（capacity）は逆に拡大している。全体では、1892年＝14,550千グロス・トン→1894年16,271千グロス・トン（11.8%増加）、i) 瀝青炭溶鉄炉＝10,098千グロス・トン→11,680千グロス・トン（15.7%増加）、ii) 無煙炭溶鉄炉＝3,198千グロス・トン→3,306千グロス・トン（3.4%増加）、iii) 木炭溶鉄炉＝1,254千グロス・トン→1,285千グロス・トン（2.5%増加）となっている。この点から、瀝青炭（コークス）溶鉄炉—「鉄鋼一貫企業」＝「結合企業」（＝巨大企業の製鉄部面—を中心に生産能力が拡大し、これが「単純製鉄企業」を倒産＝廃棄設備に追い込むとともに、巨大企業の経営内部に過剰資本（＝設備）を累積・温存させ、資本間競争の回避を強制していく圧力になっていくのである。

製鋼部面—この部面で休止ないし廃棄された企業数31社で、その内訳はi) 転炉装置＝企業数15社（全体の48.4%）—転炉数22基（そのすべてがいわゆる小ベッセマーである）、ii) 平炉装置＝企業数7社（22.6%）—平炉数10基、iii) 鋳鋼装置＝企業数9社（29.0%）—鋳鋼炉15基、となっている。この1894年に製鋼部面で休止ないし廃棄された諸設備はすべて「単純企業」で

あり、労働手段(=装置)も小規模なものである。この点の特徴は、前述の1880年代と同様である。なお、1894年のアメリカ合衆国全体の稼働率をみると、i) 転炉=生産量3,571千グロス・トン/生産能力7,740千グロス・トン、稼働率46.1%、ii) 平炉=785千グロス・トン/1,740千グロス・トン、稼働率45.1%、全体では4,412千グロス・トン/9,480千グロス・トン、稼働率46.5%となっていた。また、全体では1892年から94年の間に生産能力は7,251千グロス・トン→9,480千グロス・トンへと30.7%増大した。

圧延部面—この部面で休止ないし廃棄された企業総数は48社で、すべて「**単純圧延企業**」であった。

iii) 1900年代(=独占成立期)—1901年, 1904年—

1890年代初頭(1890年と1893年)の恐慌につづいた産業循環は、資本主義の「自由競争」段階から「**独占**」段階への推転・移行をもたらしたという点で、特別の位置を占めている。この「**独占**」の世紀(=20世紀)をメンデルソンは「重工業は、繊維その他の軽工業部門を背後におしつけて、主要資本主義諸国では首位を確保した。大きな躍進が生産技術でおこなわれた。電気、内燃発動機、化学、各種生産諸部門の全面的な結合の世紀、かつてみない生産性をもつ機械とユニット、新しい大量生産方式の世紀が到来した。独占資本主義にとって特徴的な新しい技術が、それに固有な生産の巨大な集積をともなって、多くの分野ででき上がりはじめた。」と形容している。こうした資本主義の「**独占**」段階への到来を推進した90年代の循環性盛況の物質的基礎は、i) 依然として、鉄道への資本投下—新線の建設は縮小、旧線の更新と改建の支出増大、また、鉄道運輸技術の進歩が工業部門の投資誘発した。しかし、ii) 鉄道建設が循環性盛況の**決定的な基礎**でなくなり、むしろ逆に工業発展のテンポに鉄道運輸の発展が規定されるようになった。すなわち、その盛況の基礎は工業部門における固定資本の大量的拡大にあった。iii) さらに電化の進歩—発電所、電機工場、市街電車の建設、iv) 都市の建設、などを基礎としていた¹²⁾。

1900年には、景気が後退し始めて、鉄鋼業においては最も**生産と価格の低落**が激しかったが、1901年にはいと工業盛況が復活し、この期間の恐慌は**中間的、部分的**恐慌の性格をもった。また、1901年以降の循環性盛況の物質的基礎は、鉄道および工業の固定資本の**大量的更新と拡大**、住宅公営事業の建設にあった¹³⁾。1901年には、i) 銑鉄の生産は1900年に対して2,054千グロス・トン(17.5%)増加し、13,782千グロス・トンに、さらに1903年には2,564千グロス・トン(18.4%)増加し、16,316千グロス・トンに達した。また、ii) 鋼塊の生産は、1900年の10,188千グロス・トンから3,286千グロス・トン(32.3%)急増し、1902年には1,473千グロス・トン(10.9%)増加した。iii) 圧延製品は、1900年の9,487千グロス・トンから2,862千グロス・トン(30.2%)に急増し、12,349千グロス・トンとなり、1902年には1,595千グロス・

トン(12.9%)増加した。以上のように1902年まで盛況はひきつづき、1903年になって循環性恐慌が勃発した。このように、アメリカ合衆国は1900年に中間的恐慌を経て、さらに、1903～1904年の循環性恐慌を経験したのは、鉄鋼業の個別諸資本—とくに「銑鋼一貫企業」=「結合企業」(=巨大企業)—の価格(引き上げ)政策、さらに取引所破産にみられる巨大企業の投機政策による創業利得の増大などによる再生産過程の諸矛盾の激化に根拠をおいている¹⁴⁾。

以下、具体的に U. S. Steel Trust 成立期の鉄鋼業における過剰資本(=過剰設備)の存在と処理の特徴を析出することにする。

イ) 1901年—循環性盛況局面—

この1901年は、1900年の中間的恐慌後の循環性盛況局面であり、前述したように鉄鋼業の各局面(製鉄・製鋼・圧延)で、鉄道および工業の固定資本の更新と拡大、住宅および公営企業の建設による需要増大によって生産量が急増したが、鉄鋼諸製品の市場価格は低落した。こうした経済的状況のもとで、U. S. Steel Trust が成立した。

製鉄部面—第Ⅲ—6表によると、1901年に休止ないし廃棄された総企業52社—総溶鋳炉数59基であった。これらの使用燃料別溶鋳炉の内訳は、i) 木炭溶鋳炉=企業数21社(全体の40.4%)—溶鋳炉数21基(35.6%)、ii) 無煙炭溶鋳炉=企業数9社(17.3%)—溶鋳炉数12基(20.3%)、iii) コークス溶鋳炉=企業数19社(35.6%)—溶鋳炉数21基(35.6%)、iv) その他=企業数3社(5.8%)—溶鋳炉数5基(8.5%)など、となっている。この製鉄部面での休止ないし廃棄された溶鋳炉は、依然として非能率で、小規模な木炭溶鋳炉が多いが、さらに無煙炭溶鋳炉およびコークス溶鋳炉の比重が高くなっている。また、これを企業類型別にみると、i) 「製鉄単純企業」数44社(84.6%)—溶鋳炉数49基(83.1%)をしめており、ii) 「銑鋼一貫企業」(=「結合企業」)数8社(15.4%)—溶鋳炉数10基(16.9%)となっている。この溶鋳炉10基の大部分は、コークスおよび無煙炭使用溶鋳炉である。この段階になって、「銑鋼一貫企業」(=「結合工場」)の溶鋳炉の休止ないし廃棄が、急激におこなわれた。このことは、U. S. Steel Trust(=独占)成立—独占価格の設定—によって、これまで企業(=経営)内に累積・温存されてきた過剰資本(=過剰設備)が処理されたことの証明となっている(第Ⅲ—7表参照)。

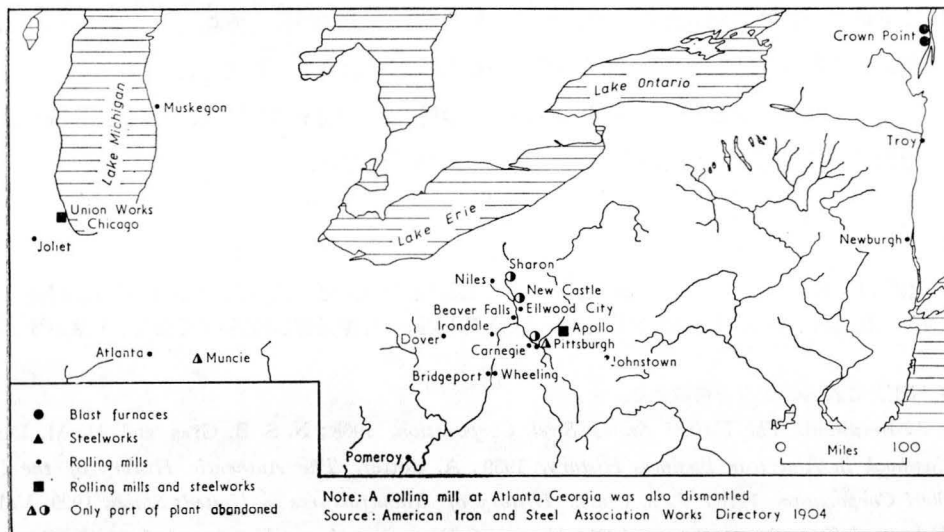
製鋼部面—この部面において休止あるいは廃棄された総企業(工場)数38社で、このうち i) 転炉=企業数10社(全体の26.3%)—転炉21基(内訳:1t—1, 2t—2, 3t—6, 4t—2, 5t—8, 6t—2)、ii) 平炉=企業数14社(36.8%)—平炉23基(内訳:5t—2, 6t—2, 7t—1, 8t—3, 10t—2, 15t—8, 18t—2, 20t—1, 25t—1, 30t—1)、iii) 鑄鋼=企業数12社(31.6%)、iv) 錬鉄(パドル銑)=企業数2社(5.3%)となっている。なお、この部面での企業類型別比率をみる、i) 製鋼・圧延単純企業数32社(84.2%)、ii) 銑鋼一貫企業(=「結合企業」)は6社(15.8%)となっている。この部面でも特徴的なことは、銑鋼一貫企業(=「結

製鉄部面=この部面で休止あるいは廃棄された総企業数54社—総溶鉱炉数58基であり、そのうち i) 「単純企業」数46社(全体の85.2%)—溶鉱炉数50基(86.2%), ii) 「結合企業」数8社(全体の14.8%)—溶鉱炉数8基(13.8%)となっている。なお、使用燃料別溶鉱数の割合は1901年と同様の傾向を示している。

製鋼部面=この部面の休止あるいは廃棄の総企業数43社、そのうち i) 「製鋼・圧延単純企業」数31社(全体の72.1%)—転炉10基, 平炉46基—, ii) 「結合企業」数12社(全体の27.9%, うち銑鍊一貫企業2社を含む)—転炉11基, 平炉12基となっている。この部面でも、「結合工場」における設備の休止あるいは廃棄が増加している。

圧延部面=この部面の休止あるいは廃棄の総企業数58社、そのうち i) 「単純圧延企業」数32社(全体の55.2%), ii) 「結合企業」における圧延工場26社(全体の44.8%, そのうち銑鍊一貫企業2社を含む)であり、1901年と同様に「結合企業」の過剰資本の廃棄・処理が、銑鋼一貫企業圧延部面に集中していることが特徴的である。このことは、U. S. Steel Trust=「産業コンツェルン(=結合企業)」次元の観点から、生産力構造—製鉄・製鋼・圧延部面—の不均衡の調整を圧延部面でおこなったことを物語っている。なぜなら、鉄鋼業での過剰資本(=設備)の休止あるいは廃棄=処理が、全体として、標準的生産条件以下の機械体系(=単純企業)の水平的統合企業=多工場企業(multi-plant firm)として成立し、過剰資本(過剰設備)であ

第Ⅲ—1図 U. S. Steel Corporation の廃棄設備 (1901—4年)



出典) Kenneth Warren, *American Steel Industry 1850—1970*, p. 129.

ったこと、さらに、過剰資本（過剰設備）の処理・調整が、この冗延部面では技術的・経済的な点で他の部面より相対的に容易であるということにその経済的根拠がある。

なお、以上のような1904年の U. S. Steel Trust の各構成企業の過剰資本の休止あるいは廃棄については、第Ⅲ—10表および第Ⅲ—1図のとおりである。

Ⅳ 総 括

以上、「U. S. Steel Trust の成立(1)—アメリカ鉄鋼独占体形成史(Ⅶ)—」として、U. S. Steel Trust 成立に関する諸説—とくにアメリカ中心に—を批判的に検討した。わたしが、とりあげたこれらの諸説の批判の基礎は、代表的な要因(=動機)、すなわち、i)競争の制限、ii)垂直的統合、iii) 発起人利得の獲得、を並列的・羅列的に個々別々に論ずるのではなく、これらの基礎にあって、3要因を有機的に結びつける経済的矛盾—資本主義的生産様式の基本矛盾にねざす—である過剰資本の恒常的、一般の—恐慌・不況局面だけでなく—な累積・温存にもとめた。この過剰資本の矛盾を基礎にしてこそ「大不況」期=「独占形成」期の鉄鋼個別諸資本の諸政策を統一的に把握できるし、さらに、U. S. Steel Trust (=独占)の形成に導かざるを得なかった基礎と3つの要因が統一的に把握可能である。こうした基礎視角が諸説批判に有効な客観的基礎を与えた。さらに、わたしの U. S. Steel Trust 成立史の把握の経済的基礎—すなわち、過剰資本の休止および廃棄=処理にその成立の根拠を求めることの有効性を実証的に検証するために、「大不況」期=「独占形成」期の過剰資本の存在と処理の特徴を3段階にかけて分析した。この検証から、U. S. Steel Trust の成立が独占価格を設定したうえで、その過剰資本を徹底的、大規模に処理—廃棄—したことを示すことができた。

次稿以下では、成立した U. S. Steel Trust の構造—生産・製品構成、販売と独占的市場支配の諸政策を検討し、以後1930年代への発展の基礎をさぐりたい。

I

1) 拙稿「U. S. Steel Trust の形成過程—第二次製品市場の支配—(1), (2), アメリカ鉄鋼独占体形成史(Ⅶ)」『社会科学年報』(専修大学社会科研究所)第12号、『専修経営学論集』(専修大学)第24号。

II

1) 以下、これらの著書を掲載する。

A. Berglund, *The United States Steel Corporation*, 1968; N. S. B. Gras and H. M. Larson, *Casebook in American Business History*, 1939; A. Cotter, *The Authentic History of the U. S. Steel Corporation*, 1916; V. S. Clark, *History of Manufactures in United States*, 1929, Vol III; *Industrial Commission Report*, 1901; House of Representatives, *Hearings before the Committee on Investigation of the United States Steel Corporation*, Vol 1~7; Seager and Gulick, *Trust and Corporation problems*, 1929; William T. Hogan, *Economic History of the Iron and Steel Industry*

in the United States, 1971, Vol. I ~ II ; E. S. Meade, *Trust Finance*, 1907 ; Nelson, *Merger Movement in American Industry—1895~1956—* ; G. G. Schroeder, *The Growth of Major Steel Co. —1900~1950*, 1953 ; *Moody's Manual* ; *The Commercial and Financial Chronicle* ; A. I. S. A., *The Iron Age* ; J. Moody, *The Truth about the Trust* ; などがある。

- 2) E. Jones, *The Trust Problems in U. S.*, 1922.
- 3) P. Temin, *Iron and Steel in Nineteenth-Century America*, 1964.
- 4) *Report of the Commissioner of Corporations on the Steel Industry*, 1911, Part 1~3.
- 5) Horace L. Wilgus, *A Study of the United States Steel Corporation*, 1901, pp. 20~27.
- 6) 堀江英一『経済史入門』有斐閣, 1975年, 181~204頁。こうした「大不況」期=「独占形成」期を産業構造の変化, 各主導産業部門—生産手段生産部門—における生産力構造の変革, 企業形態の変化という視角から把握する方法については, 堀江英一教授に大きな示唆を受けた。
- 7) Karl Marx-Friedrich Engels Werke, Band 24 “Institut für Marxismus—Leninismus beim ZK der SED, Dietz Verlag Berlin, 1963 ; カール・マルクス著『資本論(4)』(国民文庫)第Ⅱ巻第1分冊, 297~298 ; ルードルフ・ヒルファーディング著, 林要訳『金融資本論(2)』(国民文庫)大月書店, 139頁。
- 8) 堀江英一, 前掲書, 182頁。
- 9) 堀江英一, 前掲書, 182頁。
- 10) ルードルフ・ヒルファーディング著, 前掲訳書(2), 146~147頁。
- 11) ルードルフ・ヒルファーディング著, 前掲訳書(2), 146~142頁。
- 12) 拙稿「U. S. Steel Trust の形成過程(1)—第二次製品市場の支配」『社会科学年報』第12号。
- 13) ルードルフ・ヒルファーディング著, 前掲訳書(2), 16~17頁。
- 14) この点は, 呉天降『アメリカ金融資本成立史』有斐閣, 1971, 203~211頁。

以上のような諸点に Carnegie Steel Co. の競争条件の悪化を求め, そこから U. S. Steel Trust (= 独占) 成立への必須の条件—Carnegie Steel Co. の統一根拠を求める点では, 他に類をみないすぐれた説得力をもっている。この点については, 筆者も同意見である。

Ⅲ

- 1) エリ・ア・メンデリソン著, 飯田貫一, 平館利雄, 山本正美, 平田重明訳『恐慌の理論と歴史』第3分冊, 青木書店, 304頁。
- 2) William T. Hogan, *op. cit.*, Vol I, p. 305.
- 3) *Ibid.*, Vol. I, p. 310.
- 4) エリ・ア・メンデソン著, 前掲訳書, 第3分冊, 301頁。
- 5) エリ・ア・メンデリソン著, 前掲訳書, 第4分冊, 8頁。
- 6) William T. Hogan, *op. cit.*, Vol I, p. 305.
- 7) *Ibid.*, Vol I, p. 310.
- 8) エリ・ア・メンデリソン著, 前掲訳書, 第4冊, 9頁。
- 9) 拙稿「Federal Steel Co. の形成過程(上), (下)」『立命館経営学』第12巻3号, 5. 6併号。
- 10) エリ・ア・メンデリソン著, 前掲訳書, 第4分冊, 79, 81, 82頁。
- 11) エリ・ア・メンデリソン著, 前掲訳書, 第4分冊, 84頁。
- 12) エリ・ア・メンデリソン著, 前掲訳書, 第4分冊, 178~179頁。
- 13) エリ・ア・メンデリソン著, 前掲訳書, 第4分冊, 232頁。
- 14) エリ・ア・メンデリソン著, 前掲訳書, 第4分冊, 234~235頁。

Ⅳ

- 1) なお, 過剰資本(あるいは資本過多)とは, K. Marxによれば, 「いわゆる資本の過多は, つねに根本的には, 利潤率の低下が利潤の量によって償われない資本—そして新たに形成される資本の若枝はつねにこれである—の過多に, または, このようなそれ自身で行動する能力のない資本を大きな事業部門の指導者たちに信用の形で用だてる過多に, 関連している。」(カール・マルクス著, 岡崎次郎訳『資本論(6)』(国民文庫)第Ⅲ巻第1分冊, 410頁。

第Ⅱ-1表 各州における企業類型別の遊休あるいは廃棄設備（1884年）

州 別	製 鉄 工 程		製 鋼 工 程			圧 延 工 程				総 計	
	企 業 類 型 別 数		企 業 類 型 別 数			企 業 類 型 別 数				企 業 類 型 別 数	
	単 純 製 鉄	鉄 鋼 一 貫	鉄 線 一 貫	製 鋼 圧 延	鉄 鋼 一 貫	鉄 線 一 貫	単 純 圧 延	製 鋼 圧 延	鉄 鋼 一 貫	単 純 企 業	一 貫 企 業
1) New Hampshire	1 - 1 (C.)										
2) Vermont	1 - 1 (C.)										
3) Massachusetts	1 - 1 (C.)			1			3				
4) Connecticut	1 - 1 (C.)						1				
5) New York	8 - 8 (C.)			1			11				
6) New Jersey	2 - 2 (C.A.)			1			4				
7) Pennsylvania	39 { 10-11 (A.) 9-12 (B.) 20-20 (C.)			4			7				
8) Maryland	5 { 3-3 (B.) 2-2 (C.)						2				
9) Virginia	4 { 1-1 (Co.) 3-3 (C.)										
10) North Carolina	5 { 4-4 (C.) 1-1 (Co.)										
11) Georgia	3 { 2-2 (C.) 1-1 (B.)										
12) Alabama	2 - 2 (C.)										
13) Kentucky	11 { 10-10 (C.) 1-1 (B.)						2				
14) Tennessee	16 - 16 (C.)						1				
15) Ohio	26 { 15-15 (C.) 11-11 (B.)			2			6				
16) Indiana	3 - 3 (B.)						3				
17) Illinois	2 - 2 (B.)			2							
18) Michigan	10 - 10 (C.)						3				
19) Wisconsin	2 - 2 (C.)										
20) Missouri	3 - 3 (C.)						1				
21) Rhode Island	...						1				
合 計	144 - 146 C. 101 - 101 A. 30 - 30 B. 11 - 14 Co. 2 - 2										
出 典)	A.I.S.A., (Works directory), 1884. 注1) 製鉄工程のC. は木炭溶鉱炉, B. は無煙炭溶鉱炉, Co. はコークス溶鉱炉, A. は無煙炭溶鉱炉を示している。										

第三-3表 各州における企業類型別の遊休あるいは廃棄設備（1886年）

州 別	製 鉄 工 程			製 鋼 工 程			圧 延 工 程			総 計	
	企 業 類 型 別 数			企 業 類 型 別 数			企 業 類 型 別 数			企 業 類 型 別 数	
	単 純 製 鉄	鉄 鋼 一 貫	鉄 鋼 一 貫	製 鋼 圧 延	鉄 鋼 一 貫	鉄 鋼 一 貫	単 純 圧 延	製 鋼 圧 延	鉄 鋼 一 貫	単 純 企 業	一 貫 企 業
1) Vermont	2(C.2-2)			1(OH.-1)				2(F. & B.)		5	
2) Massachusetts	2(C.1-1 A.1-1)			1(C.-1)			1(")			4	
3) Connecticut	1(C.1-1)									1	
4) New York	13(C.9-10 A.&C.4-6)	2(A. & C.-5)		1(C.-1)			8(")			22	2
5) New Jersey	1(C.1-1)			3(C.-1)			1(")			5	
6) Pennsylvania	46(C.20-20 A.9-9 B.&C.16-23 G.1-1)			6(C.-4 O.H.-2)			23(")			75	
7) Maryland	5(C.2-2 B.&C.3-3)									5	
8) Virginia	11(C.9-10 Co.2-3)						11(")			22	
9) North Carolina	3(C.3-4)						7(")			10	
10) Georgia	5(C.4-5 Co.1-2)						1(")			6	
11) Alabama	3(C.3-3)									3	
12) West Virginia	4(C.3-3 Co.1-1)						1(")			5	
13) Kentucky	16(C.15-15 Co.1-1)			1(C.-1)			1(")			18	
14) Tennessee	17(C.16-16 Co.1-1)						16(")			33	
15) Ohio	30(C.18-18 B.&C.12-13)			4(C.-1)						34	
16) Indiana	4(C.1-1 B.3-4)									4	
17) Illinois	1(B.&C.1-1)			2(C.-2)						3	
18) Michigan	9(C.9-12)									9	
19) Wisconsin	2(C.2-2)									2	
20) Missouri	8(C.8-9)						2(F. & B.)			10	
21) Utah	2(C.2-2)									2	
22) Rhode Island				1(OH.-1)						1	
総 計	183-206 C.127-137 B.&C.32-40 Co.6-8 A.&C.4-6 A.10-10 B.3-4 G.1-1	2(A.&C.2-5)		20(OH.-3 C.-17)			74(F.&B.)			279	2

出典) A.I.S.A., (Works directory), 1886, pp. 64-73, 153, 163-165.

注1) 製鉄工程のC. は木炭溶鉱炉, B. は焦炭溶鉱炉, B. & C. は焦炭・コークス溶鉱炉, A. は無煙炭溶鉱炉, Co. はコークス溶鉱炉である。

注2) 製鋼工程のO. H. は平炉, C. は鋸鋼である。

注3) 圧延工程のF. & B. は鍛造工場 (Forges) = 単純鍛造企業, および棒鉄工場 (Bloomeries) = 棒鉄単純工場である。

第5-5表 各州における企業類型別の遊休あるいは産業設備（1894年）

州 別	製 鉄 工 程		製 鋼 工 程		圧 延 工 程			一 般 計			
	企業類型別数	企業類型別数	企業類型別数	企業類型別数	企業類型別数	企業類型別数	企業類型別数	企業類型別数	企業類型別数		
	単 独 製 鉄	洗 鋼 一 貫	洗 鋼 一 貫	製 鋼 圧 延	洗 鋼 一 貫	洗 鋼 一 貫	単 独 圧 延	製 鋼 圧 延	洗 鋼 一 貫	単 独 製 鉄	一 貫 製 鋼
1) Maine	1(C.1-1)									1	
2) Connecticut	2(C.2-2)						1			3	
3) New York	9(C.3-5 A.&Co.5-7 Co.1-2)			2(OH.1-10t-1 C.1-1)			5			16	
4) New Jersey	3(A.&Co.3-5)			1(C.1-1)			4			8	
5) Pennsylvania	32(C.2-2 B.&Co.6-7 A.&Co.24-27)	1(A.&Co.1-1)		8(B.5-1 ¹ / ₂ t-1(R) 2t-2 3t-5(C.G.) C.3-4)			9			50	
6) Maryland	5(C.3-4 B.&Co.1-1 A.&Co.1-3)						1			6	
7) Virginia	9(C.9-12)						2			11	
8) West Virginia	2(B.&Co.2-2)									2	
9) Kentucky	4(C.3-3 Co.1-1)									4	
10) Tennessee	4(C.2-2 Co.2-3)			1(B.1-2t-1)			1			6	
11) North Carolina	2(C.2-2)									2	
12) Georgia	1(C.1-1)									1	
13) Alabama	2(C.2-2)									2	
14) Ohio	11(C.3-3 B.&Co.9-11)			5(B.2-1 ¹ / ₂ t-2(R) 3t-2 OH.2-15t-2 8t-1 C.1)			7	1		24	
15) Illinois	2(Co.2-3)			7(B.4-5(2t-1 4t-1 7t-2 OH.3-7(4t-4 15t-2)			3	1		13	
16) Michigan	9(C.8-10 A.&Co.1-1)									9	
17) Wisconsin	1(C.1-1)									1	
18) Missouri	2(C.1-1 Co.1-1)			1(C.1-6)			2	1		6	
19) Oregon	1(C.1-1)									1	
20) California	1(C.1-1)									1	
21) Massachusetts				4(B.3-3t-2 4t-2 OH.1-2)			4			8	
22) Indiana				2(C.2-3)			4			6	
23) その他 Minnesota, Kansas, Delaware, Texas							5			5	
総 計											

第三-6表 U.S. Steel Corporation の構成企業の遊休あるいは廃棄設備 (1901年)

(1)

企 業 名 (州名, 工場名)	製 鉄 工 程			製 鋼 工 程			圧 延 機		圧 延 完 成 品
	木炭高炉	蒸 汽 炭 コークス	無 煙 炭 コークス	計	転 炉	平 炉	ルツボ,その他	圧 延 機	
1) Illinois Steel Co. (i) North works									rails, beam
2) National Steel Co. (i) Shenango furnace (ii) Mingo furnace (iii) Columbia works			1基(1872) 80x17 $\frac{3}{4}$ 1基(1886) 75x17				1基(1857) 6 gross tons 2基(1886-7) 5 gross tons		several trains of rolls bloom, billet, slab, special shapes
3) American Steel & Wire Co. (i) Edith furnace (ii) Newburgh works (iii) Portage works								built in 1890 wire nail factory, wire-rod train, partly dismantled	wire rod, wire, wire nails wire-rod, wire nail
4) American Sheet Steel Co. (i) Apollo sheet iron mill (ii) Kirkpatrick works (iii) Leechburg rolling mill (iv) Pittsburgh sheet manu- facturing works (v) Coshocton works (vi) Russia works (vii) Corning works						2基(?) 20 gross ton, basic 30 " , acid		built in 1886 built in 1886 built in 1899-1900 built in 1864 put in operation 10.17, 1892	fine sheet iron, black-plate etc. fine sheet steel iron and steel sheets sheet steel iron and sheet skelp, sheet iron, sheet steel steel sheet
5) American Tin Plate Co. (i) Somerton Tin Plate works (New York) (ii) Blairsville works (Penn.) (iii) Hamilton works (Penn.) (iv) Marshall works (Penn.) (v) Neshannock works (Penn.) (vi) Ohio River works (Penn.) (vii) Washington works (Penn.) (viii) Baltimore works (Maryland) (ix) Stickney works (Maryland) (x) Britton works (Ohio) (xi) Montpelier works (Indiana) (xii) Cincinnati works								put in operation, 10, 1892 built in 1892 built in 1897 built in 1856 built in 1873 built in 1895 built in 1896 built in 1862 put in operation 11.5, 1895 built in 1890-1 built in 1894 built in 1880	iron or steel black plate black plate for rimming black plate sheet and black plate for tinning black plate for tinning sheet iron and black plate for tinning black plate for tinning black plate for tinning black plate for tinning black plate for tinning
6) American Bridge Co. (i) Trenton iron works (New Jersey)								built in 1845 rolling mill dis- mantled	iron and steel structural shape, merchant bar
7) Shelby Steel Tube Co. (i) New Castle works (Penn.)								built in 12, 1895	black plate for the manufacturing of seamless-drawn steel plant

第三-6表 U.S. Steel Corporation の構成企業の選休あるいは廃棄設備 (1901年)

(2)

企 業 名 (州名, 工場名)	製 鉄 工 程				製 鋼 工 程			圧 延 工 程	
	木炭高炉	歴青炭 コークス	無煙炭 コークス	計	転 炉	平 炉	ルツボ,その他	圧 延 機	圧 延 完 成 品
(ii) Albany works (Indiana)								added to a tube plant 1898	blanks
(iii) Hartford works (Conne.)								added to tube works in 1897	
(iv) Mansfield works								built in 1895-6	blanks
8) American Steel Hoop Co. (i) Atlantic works								built in 1867	bar, plate, hoop, rod iron, cut nail

出典) A.I.S.A., (Works directory), 1901 より作成。

第三-7表 U.S. Steel Corporation 以外の鉄鋼一貫企業の選休あるいは廃棄設備 (1901年)

企 業 名 (州名, 工場名)	製 鉄 工 程				製 鋼 工 程			圧 延 工 程	
	木炭高炉	歴青炭 コークス	無煙炭 コークス	計	転 炉	平 炉	ルツボ,その他	圧 延 機	圧 延 完 成 品
1) Bethlehem Steel Co. (i) South works (Penn.)			注1) 1基(1863) 61'x15 $\frac{1}{3}$ '	1					
2) Lackwanna Iron and Steel Co. (i) Lackwanna furnaces (Penn.)			3基(1849- 1872) 80'x17, 75'x16 $\frac{1}{2}$ 75'x16 $\frac{1}{2}$	3					
3) Tennessee Coal, Iron, and Rail- road Co. (i) Spathite furnace			1基(1889) 75'x14'	1				blown in 10, 1889	
4) Republic Iron and Steel Co. (i) Alabama Steel works (Alabama)						2基(1889-90) 15t, basic		built in 1889-90 trains of rolls	ingot, bloom, billet slab
(ii) Leetonia works								built in 1871 trains of rolls	muck bar and mer- chant bar
(iii) White River works 注2)								built in 1891-2	merchant bar iron and steel
(iv) Muscatine works (Iowa)								put in operation 10, 1893	bar, band, flat
(v) Calumet works 注3) (Illinois)								built in 1876	bar iron and steel, angle sprices, and shafting
(vi) Peoria works (Illinois)								put in operation in 1892	bar, band, hoop
(vii) Springfield works (Illinois)					2基(1887) 5 gross ton			first blow in 8.8, 1887	
(viii) Sylvan works (Illinois)						1基(1898) 5 gross ton		built in 1898 open hearth <u>only</u> dismantled steel ingot	
5) Jones and Laughlins Edith furnace (Penn.)			2基(1861- 1866-7) 75'x15' 80'x20'	2					
合 計			7 基	7 基	2 基	3 基		4 mills	
その他, 単純企業数 127社	21 基	2 基	25 基	48 基	13 基	29 基	22 plant (2 puddling pl.)	47 mills	

第III-8表 各州における企業類型別の遊休あるいは廃棄設備（1904年）

州 別	製 鉄 工 程		製 鋼 工 程			圧 延 工 程				総 計	
	企 業 類 型 別 数		企 業 類 型 別 数			企 業 類 型 別 数				企 業 類 型 別 数	
	単,純製鉄	製鋼一貫	鉄練一貫	製鋼圧延	製鋼一貫	鉄練一貫	単純圧延	製鋼圧延	製鋼一延	単純企業	一貫企業
Massachusetts	1 (1) ^{注1)}									1 ^{注4)}	0
Connecticut	1 (1)			1 (1) ^{注2)} (0)			1				
New York	2 (2)	1 (1)		2 (0) (3)			2		2	4	3
New Jersey	1 (1)	1 (1)		6 (0) (23)			1			8	1
Pennsylvania	17 (19)	4 (4)	1	7 (4) (7)	6 (9) ^{注3)} (6)	1	14		8	38	18 ^{注5)} (2)
Maryland	1 (1)						1			2	0
Virginia	2 (2)						2			4	0
West Virginia	1 (1)						1		1	2	1
Tennessee		1 (1)					2			2	1
North Carolina	1 (1)						1			2	0
Georgia	2 (2)								1	2	1
Alabama	3 (3)	1 (1)	1			1				1	(2)
Texas				1 (1) (0)						1	0
Ohio	6 (7)			5 (0) (5)					6	11	6
Indiana	2 (2)			2 (2) (1)	1 (0) (2)		1		2	5	3
Illinois	1 (1)			4 (0) (5)	2 (2) (2)		3		2	8	4
Michigan	5 (6)			1 (0) (1)					2	6	2
Minnesota				1 (0) (1)	1 (0) (2)		1		*	2	1
Missouri				1 (2) (0)			1			2	0
California							1			1	0
アメリカ合衆国総計	46 (50)	8 (8)	2	31 (10) (46)	10 (11) (12)	2	32	0	24	102	41 (4)

出 典) A.I.S.A.,(Works directory), 1904, pp. 358-374.

注1) 製鉄工程の () の数字は、溶鉱炉基数である。

注2) 製鋼工程の () の数字は、上段転が基数、下段は平炉（酸性、塩基性）およびルツホ(Crucible Furnace)の数である。

注3) 注2) に同じ。

注4) 総計欄の企業類型別数は、遊休、廃棄設備の企業延数である。ゆえに、製鋼工程、圧延工程の両方を遊休、廃棄した場合、いづれにも企業数1と記入され、企業数は2となる。

注5) () の数字は、鉄練一貫企業数である。

第百-9表 U.S. Steel Corporation の構成諸企業の並休あるいは廃棄設備 (1904年)

企 業 名 (州名, 工場名)	製 鉄 工 程			製 鋼 工 程			圧 延 工 程		
	木炭高炉	炭 青 炭 コークス	無煙炭・コー クス・コークス	計	転 炉	平 炉	ルツボ, その他	圧 延 機	圧 延 完 成 品
1) Carnegie Steel Co. i) New Castle Furnace			1基(1885) 75x18 $\frac{1}{2}$	1					
ii) Sharon Furnace			1基(1867) 75x18	1					
2) Illinois Steel Co. i) Union Works						2基(1885-6) 10 gross ton			
3) American Steel & Wire Co. i) Crown Point Furnace			2基(1872) (1881) 60x17 70x18 1基(1882) 75x16 $\frac{1}{2}$	2					
ii) Edith Furnace				1					
iii) Newburgh Works									wire rods, wire, wire nails
iv) Rensselaer Iron Works							merchant mill built in 1878		steel shapes, sheet, merchant steel of all kinds
v) Beaver Falls Works									steel wire rods, plain, wire nail, galvanized copper merchant wire
vi) Charties Works									sheet iron and steel
vii) South Side Works							rod mill built in 1884		wire rods, wire, wire nails
4) American Sheet Steel Co. i) Appollo Works						2基(1886) 20 gross ton, acid			
ii) Russia Works							built in 1864		iron and steel skelp, sheet iron, sheet steel
5) American Tin Plate Co. i) Ellwood City Works							built in 1893		black plates for tinning cold rolled steel sheets
ii) Johnson Works							built in 1893		black plate for tinning
iii) Banfield Works							built in 1868		black plate for tinning
iv) Reeves Works							built in 1864		iron and steel skelp, sheet iron, sheet steel
v) Atlanta Works							built in 1894-5		black plate for tinning and light sheets
vi) Great Western Works							built in 1891-2		black plate for tinning
vii) Muskegon Works							black plate mill added in 1899		iron and steel black plate for tinning
6) American Steel Hoop Co. i) Clark Mill						2基(1889-90) 12 gross ton, acid			
ii) Atlanta Mill							built in 1900		hoops and cotton ties
iii) Bridgeport Mill							built in 1873		steel bars, light tee rails, angles
iv) Pomeroy Mill							built in 1847		bands, horse shoe bars refined iron and soft steel bars
7) National Tube Co. i) Riverside Bar Mill							built in 1875		steel skelp
総 計				5 基	2 基	4 基		17 plant	

出 典) A.I.S.A., (Works directory), 1904, pp. 359-374. より作成。

注1) U.S. Steel Corporation に統合されたNational Steel Co.(1899設立)の製鉄工場であった。

しかし、この U.S. Steel Corporation に統合された後、National Steel Co.は1903年 Carnegie Steel Co.と合併 (amalgamation) して Carnegie Steel Co.になった。

第三-10表 アメリカ合衆国の州別、企業別の遊休、廃棄設備全体 (1904年)

(1)

企 業 名 (州名, 工場名)	製 鋳 工 程				製 鋼 工 程			圧 延 工 程	
	木炭高炉	酸 青 炭 コークス	無 煙 炭 コークス	計	転 炉	平 炉	ルツボ, その他	圧 延 機	圧 延 完 成 品
(Massachusetts)									
Richmond Iron Co.	1基(1858年) 32x9			1					
(Connecticut)									
The London Iron Co.	1基(1825) 32x9			1					
Barnum Richardson Co.	1基(1863) 31x9 $\frac{1}{2}$			1					
Driggs-Seabury Gun & Ammunition Co.					1基(21,1898) side-blown Tropenas Steel Con- verter				
Windsor Locks Steel Works							1(1860)	train of rolls	merchant steel, tank plate, tool, die steel
(New York)									
The Burden Iron Co.			1基(1867) 60x14 $\frac{1}{2}$	1					
American Steel & Wire Co. (Crown Point Furnace)			2基(1872) 1881) 60x17 70x18	2					
Sterling Iron and Rail Way Co.			2基(1868, 1866) 45x13 42x14	2					
Astoria Steel Co.					1基(1900)			blooming mill wire-rod mill	billets, wire rods train of rolled dismantled
American Steel & Wire Co. (Newburgh Works)									wire rods, wire, wire nails
American Steel & Wire Co. (Rensselaer Iron Works)								merchant mill(1878)	steel shapes, sheet, merchant steel of all kinds
Rome Steel Co.									angles, rods for bed steads
American Steel Casting Co. (Syracuse Works)					2基(1900) 10t acid				steel casting
The Delaware and Hudson Co. (Russia Iron Works)								forge	bloom, billets
(New Jersey)									
Lackawanna Iron & Steel Co. (Franklin Furnace)			1基(1874) 67x16 $\frac{1}{2}$	1					
Musconetcong Iron Works			1基(1841) 70x17	1					
Cartert Steel Co.					1基(1898) 5t basic				
Graphite Metal Co.							3基(1898) special furnaces		steel casting
Harvey Steel Co.							2基(1889) 4 pot melt- ing holes	trains of rolls	
New York Switch and Grossing Co.					1基(1894) 7t acid		3基(1896-7) 6 pot melt- ing holes		steel casting
Oliphant Steel & Iron Co.					1基(1900) 6t acid				steel casting
Uniform Steel Co.							12基(1901) 4 pot furnaces		steel casting tools, dies, high- grade machine cast- ings
Paterson Bloomary									charcoal blooms and charcoal iron (capacity 2,250t)
(Pennsylvania)									
Conewago Iron Co. (Conewago Furnace)			1基(1879) 45x11	1					

第三-10表 アメリカ合衆国の州別、企業別の遊休・廃棄設備全体(1904年)

(2)

企 業 別 (州名、工場名)	製 鉄 工 程				製 鋼 工 程			圧 延 工 程	
	木炭高炉	懸 青 炭 コークス	無 煙 炭 コークス	計	転 炉	平 炉	ルツボ、その他	圧 延 機	圧 延 完 成 品
Coplay Iron Co.			2基(1889) 55x16 70x15	2					
The Duncannon Iron Co. (Duncannon Furnace)			1基(1880) 60x15	1					
<u>American Steel & Wire Co.</u> (Edith Furnace)			1基(1882) 75x16 $\frac{1}{2}$	1					
Logan Iron and Steel Co. (Emma Furnace)			1基(1867) 54x10 $\frac{1}{2}$	1					
Falling Spring Furnace	1基(1880) 40x8 $\frac{1}{2}$			1					
Gap Furnace			1基(1881) 49 $\frac{1}{2}$ x11 $\frac{1}{2}$	1					
The Thomas Iron Co.			1基(1863) 65x17	1					
Jefferson Furnace	1基(1880) 33x8			1					
Reading Iron Co. (Keystone Furnace)			1基(1873) 65x14 $\frac{1}{2}$	1					
Lackawanna Iron & Steel Co.			1基(1852) 75x16 $\frac{1}{2}$	1					
Little Giant Furnace			1基(1889) 40x6	1					
Lucinda Furnace Co.			1基(1889) 55x14	1					
Marietta Furnaces			2基(1847、 1849) 50x1 $\frac{1}{2}$ 38x12	2					
Mont Alto Iron Co.	1基(1889) 50x11			1					
<u>Carnegie Steel Co.</u> (New Castle Furnace No.3)			1基(1885) 75x18 $\frac{1}{2}$	1					
South Mountain Mining & Iron Co. (Pine Grove Furnace)	1基(1770) 53x9			1					
Eastern Steel Co. (Pioneer Furnaces)			2基(1866、 1872) 60x13 65x14	2					
Richmond Furnace			1基(1875) 36x9 $\frac{1}{2}$	1					
<u>Carnegie Steel Co.</u> (Sharon Furnace)			1基(1887) 75x18	1					
Swatara Furnace			1基(1880) 50x11	1					
Tom Thumb Furnace			1基(1900) 20x6 $\frac{1}{3}$	1					
<u>American Sheet Steel Co.</u> (Appollo Works)					2基(1886) 20t acid		trains of rolls	ingot, black sheet	
<u>American Steel & Wire Co.</u> (Beaver Falls Works)								steel wire rods, plain galvanized, copper market wire, bar bed wire, wire nails	
Bethlehem Steel Co.				4基(1873) 7 $\frac{1}{2}$					
Bridgewater Steel Works							car axles rolls	car axles	
Catasauqua Rolling Mill								bar iron, skelp	
<u>American Steel & Wire Co.</u> (Charties Works)								sheet iron and steel	

第四-10表 アメリカ合衆国の州別、企業別の遊休・廃棄設備全体（1904年）

(3)

企 業 名 (州名,工場名)	製 鉄 工 程				製 鋼 工 程			庄 延 工 程	
	木炭高炉	炭 青 炭 コークス	無 煙 炭 コークス	計	転 炉	平 炉	ルツボ,その他	庄 延 機	庄 延 完 成 品
<u>American Steel Hoop Co.</u> (Clark Mill)						2基(1889-90)			
Clinton Iron & Steel Co. (Clinton Rolling Mill)						12t, acid		built in 1846	plate iron
<u>American Tin Plate Co.</u> (Ellwood City Works)								built in 1893	black plates for tinning cold-rolled steel sheets
Fullerton Rolling Mill								built in 1810	bar iron and skelp
Harrisburg Nail Works					3 基			wire-rod trains wire drawing & wire-nail plant	muck bar
Hartman Manufacturing Co.								annealing furnaces	bars, bands, cold- rolled strip, deep stamping deep drawing stock
Union Spring & Manufacturing Co.								trains of hot roll 10 inch cold rolls	black plate for tinning
<u>American Tin Plate Co.</u> (Johnson Works)								built in 1893	
Jupiter Steel & Coal Co. (Jupiter Steel Works)						o	o	built in 1857	boiler plate, skelp, tank car iron etc.
Keystone Iron Works					1 基 30t			machinery dis- mantled	
Hery Disston & Sons Iron & Steel Works (Key stone Saw, Tool, Steel & file works)								built in 1882	buggy & wagon axles "McIness" tool steel
Liggett Spring & Axle Co.								built in 1894	skelp, bar iron
McIness Steel Co.								machinery, rolling mill dismantled	open hearth steel casting
Norristown Iron Co.								trains of rolls	steel rails
American Steel Casting Co. (Norristown Works)						2基(1891)			open hearth casting
Lackawanna Iron & Steel Co. (North Works)					3基(1875)	15t, acid			steel rails
American Steel Casting Co. (Pittsburgh Works)					7t				open hearth casting
Glasgow Iron Co. (Pottstown Iron Works)						2基(1871)			sheet
Rolling Mill Co. of America						acid			bars, angles, sheets plates
Philips, Nimick & Co. (Sligo Rolling Mills)								built in 1825	rod mill built 1884
<u>American Steel & Wire Co.</u> (South Side Works)									wire rods, wire, wire nails
Lackawanna Iron & Steel Co. (South Works)					2基(1883)			first steel rails, 1883	ingot steel rails
Sunbury Iron Works					9t			built in 1883	puddled bars, cut nails
Totten & Hoggs Iron & Steel Foundry Co.						1基(?) 15t, acid			open hearth steel casting
Walter Steel Co.							built in 1899		crucible steel casting
French Creek Forge							Forge built in 1872		charcoal blooms
Mont Alto Iron Co. (Mont Alto Iron Works)							built in 1866		charcoal blooms
(Maryland)									
Blue Mountain Iron & Steel Co. (Isabella Furnace)	1基(1856)			1					
McCullough Iron Co. (North East Works)	32x9							forge	sheet iron for glavanizing charcoal bloom
(Virginia)									

第四-10表 アメリカ合衆国の州別、企業別の遊休・廃棄設備全体 (1904年)

(4)

企 業 別 (州名, 工場名)	製 鉄 工 程				製 鋼 工 程			圧 延 工 程	
	木炭高炉 コークス	高炭 コークス	無煙炭 コークス	計	転 炉	平 炉	ルツボ,その他	圧 延 機	圧 延 完 成 品
Graham & Robinson (Cedar Run Furnace)	1基(1832) 32x9			1					pig iron for car wheels & chilled rolls, daily capacity 7t
Lynchburg Furnace			1基(1884) 60x11 $\frac{3}{4}$	1					
Iron Gate Rolling Mill								built in 1890-1	muck bar, merchant iron light iron and steel rail etc.
Virginia Nail & Iron Works								built in 1867	guide iron, round, square, flat bar iron, light tee rail
(West Virginia)									
Black Band Iron and Coal Co. (Bettie Furnace)	1基(1822-3) 50x10 $\frac{1}{2}$			1				built in 1875	steel skelp
National Tube Co. (Riverside Bar Mill)									sheet for roofing and stamping
West Virginia Steel Co.									
(Kentucky)									
Republic Iron and Steel Co. (Mitchell-Tranter Works)						1基(1879) 7t,acid			ingot
(Tennessee)									
Tennessee Coal, Iron and Railroad Co.			1基(1879) 70x18	1					
Knoxville Iron Co.								two works put in operation, 1891	tee rail, fish plate, merchant bar, bolts, street rails
Harriman Wrought Iron Co.								experimental plant in built, 1891	wrought iron
(North Carolina)									
Cranberry Iron and Coal Co. (Cranberry Furnace)			1基(1883-4) 50x11 $\frac{1}{2}$	1					pig iron, annual capacity
W. J. Pasley (Helton Forge)							built in 1859 fires-2, hammer-1		bar iron, fuel-charcoal
(Georgia)									
Etna Manufacturing Co. (Etna Furnace)	1基(1889) 45x10			1					car-wheel pig iron annual capacity; 10,000t
Ridge Valley Iron Co. (Hermitage Furnace)	1基(1874) 60x10			1					
American Steel Hoop Co. (Atlanta Mill)								built in 1900	hoops & cotton ties
(Alabama)									
Southern Mineral Land Co. (Bibb Furnace)	1基(1892) 55x12			1					car-wheel pig iron annual capacity; 14,500t
The Decatur Land Co. (Decatur Charcoal Iron Furnace)	1基(1887) 60x12			1					
H. F. De Bardleben (Edwards Furnace)			1基(1887) 70x15	1					
Alabama Consolidated Coal & Iron Co. (Mary Pratt Furnace)			1基(1889) 60x14	1					
Southern Mineral Land Co. (Brierfield Rolling Mill)							padding furnace 24基	heating furnace-18 inch trains of rolls-cut-nail machine-	merchant bar iron, nails annual capacity; 12,000t
(Texas)									
Kolly Plow Co.						1基(1899) 1t, Tropenna			steel casting
(Ohio)									
The Brier Hill Iron & Coal Co. (Grace Furnace)			1基(1882) 80x18	1					

企 業 別 (州名, 工場名)	製 鉄 工 程				製 鋼 工 程			庄 延 工 程		
	木炭高炉	懸青炭 コークス	無煙炭 コークス	計	転 炉	平 炉	ルツボ,その他	庄 延 機	庄 延 完 成 品	
Huron Furnace			1基(1889) 49x13	1						
The Southern Ohio Portland Cement Co. (Madison Furnace)	1基(1854) 40x11			1						
The Vernon Iron Co. (Mount Vernon Furnace)	1基(1833) 32x10 $\frac{1}{2}$			1					car-wheel, cylinder foundry pig iron	
New York & Western Coal Co. (1906)			2基(1877) 52x15 50x14	2						
Scioto Furnace	1基(1844) 32x10 $\frac{3}{4}$			1						
American Tin Plate Co. (Banfield Works)								built in 1868 The Pioneer Iron Co.	black plate for tinning	
American Steel Hoop Co. (Bridgeport Mill)								built in 1873	steel bars, light tee rails, angles	
Canton Saw Co.								crucible steel melt- ing furnace - 3機.	built in 1852	small machine cast- ings, annual capa- city, 50t
Republic Iron & Steel Co. (Cleveland Works)									built in 1852	locomotive and car axles, forging, iron shafting
Coxey Steel & Silica Sand Co.								crucible, 2基 built in 1900-1		crucible steel casting
Heckert-Baltzley Billet Co.					1基(1888) basic			trains of rolls		seamless steel tubing steel cast- ing
Lima Steel Casting Co.					2基(1892) acid					steel casting
American Steel Hoop Co. (Pomeroy Mill)								built in 1847		bands, horse shoe bars, refined iron and soft steel bars
American Tin Plate Co. (Reeves Works)								built in 1815		black plates for tinning and black steel sheets
American Sheet Steel Co. (Russia Works)								built in 1864		iron steel and skelp sheet iron, sheet steel
Youngstown Engineering Co. (Indiana)								Tropenas open hearth steel casting		steel casting, project abandoned
Brazil Furnace			1基(1897) 60x13	1						
Vingo Furnace			1基(1873) 62 $\frac{1}{2}$ x 13	1						
American Tin Plate Co. (Atlante Works)								built in 1894-5		black plate, for tinning and light sheets
Central Steel Co.					1基(1890-1) basic	1基(1890-1) basic		trains of rolls		billets, angles, etc.
Chicago Steel Manufacturing Co.					2基(1886-7) 5t			trains of rolls-		shovel and nail plate iron and sheet cut-nails etc.
American Sheet & Tin Plate Co. (Midland Works)						2基(1892) 30t-basic 30t-acid				ingots
National Rolling Mill Co.								built in 1901		muck bars, finished bar iron
Republic Iron & Steel Co. (New Albany Works)								forge built in 1869	rolling mill built in 1887	car axles, shafting forging, bar and structural iron
(Illinois)										
Bit Muddy Furnace			1基(1871) 69x17	1						
American Can Co.						1基(1890-1), 6t, acid				sheet steel
Chicago Tin Plate & Can Co.										black plate & sheets project abandoned
American Steel Foundries (Chicago Works)						2基(1892) 15t, 20t Simens acid				draw bars, car wheel general casting, couplers
American Tin Plate Co. (Great Western Works)								built in 1891-2		black plates for tinning
Hercules Steel Casting Co.								built in 1899		casting

企 業 名 (州名, 工場名)	製 鉄 工 程				製 鋼 工 程			圧 延 工 程	
	木炭高炉	藍 青 炭 コークス	無 煙 炭 コークス	計	転 炉	平 炉	ルツボ, その他	圧 延 機	圧 延 完 成 品
Plano Steel Works Sargent Co. Republic Iron & Steel Co. (Springfield Works) The Illinois Steel Co. (Union Works) Valley Steel Works (Michigan)							crucible built in 1890.	first put in operation in 1885	steel shapes for agricultural im- plements black shoe inserts, general casting
Eureka Iron & Steel Works (Eureka Furnace)	2基(1884-5) 45x9 55x11			2			2基(1899) 20t, Simens- per not acid	steel ingot	
Pisneer Iron Co. (Excelsior Furnace)	1基(1880) 50x10			1				rail mill rebuilt in 1885-6	rails and billets
Gaylord Iron Co.	1基(1856) 56x9 $\frac{1}{2}$			1	2基(1885-6) 10t			built in 1885-6	steel cut nails, large shaft
Grace Furnace		1基(1872) 63x17		1					
Martel Furnace	1基(1881) 53x11 $\frac{1}{2}$			1					car-wheel pig iron
American Rolling Mill Corp. American Tin Plate Co. (Muskegon Works) (Minnesota)						1基(1890)		trains of rolls- black plate mill added in 1899	steel ingot, muck bar iron iron and steel black plates for tinning
Metropolitan Life Insurance Co. (Dulth Car Works)								built in 1888-9, heating furnace- gas pro.- trains of rolls- hammer A car-wheel plant, car-axles plant, carbalding plant-1	bar iron, rods, bolts, forgings, annual capacity; 11,000t
Iron Structural Steel Works						1基(1895) 20t, acid		gas heating furnace 30 inch trains of rolls-	structural steel, annual capacity; 35,000t
Republic Iron and Steel Co. (Minnesota Iron Works) (Missouri)						2基(1898) 22t-1(basic) 15t-1(basic)			bar iron, open hearth steel bars and shapes
St. Louis Iron and Foundry Co. St. Louis Steam Forge and Iron Works (Washington)					2基(1901) 2t Tropenas		forge built in 1862		steel casting bar iron, car-axles forging of iron or steel
Pacific Steel Co. (California)						open hearth plant		rolling mill	
Pacific Iron and Nail Co.								commenced work in 1899	project abandoned muck bars, nails plates
アメリカ合衆国総計	21	2	40	63	22	34			66 bessemer plant open hearth rolling mill

* 1898年6月～1901年11月まで、61基の溶鉱炉が休止および廃棄された。
その間、同様に118の Rolling mill, Bessemer plants, open-hearth plants, Crucible steel plants
が休止および廃棄された。さらに、50の forges, bloomaries が同様に休止および廃棄された。

<編集後記>

お疲れがでず、今後もますます活躍されることを祈念して。それにしても若さが羨しい。

神奈川県川崎市多摩区生田4764 電話 (044) 911-8480 (内線33)

専修大学社会科学研究所
(発行者) 大友福夫